

い、蒙古語で巫を *böye*、そのブリヤート語で *bo* (至元譯語に師婆を跋と譯して居るのはこの *bo* の音譯である) といふのも *böjik* 即ち「踊り」といふ語と關係せるものと思ふ。自分は *kan* なる語についても此の考を以て解釋して見たい、トルコ語で *kan* といふ言葉は動くとか、急動するとか、震ふとか、揺り上るとか (*rühren, bewegen, zucken, schütteln rütteln, arbeiten*) といふ義<sup>⑩</sup>であるが、華夷譯語には「舞的」に對して「寒赤」なる語が配してある。「赤」は此の國語に於る *nomen agentis* に過ぎないから、「寒」に舞の意の存してゐたものであることは疑ない。「寒」の音は *kan* (*han*) であつて *kan* ではないが、トルコ語としては *kan* に踊る、舞ふといふ様な義はないし、語尾の *m* 音を *n* 音で寫したり、反對に *n* 音を *m* 音で寫したりする事は *baquam* (蘇木) を馬刊 (*bakan*) で寫したり獅子 (*arslan*) を阿兒思藍 (*raslan*) で寫したりする如く、華夷譯語の中には度々存する例であるから、「寒」(*kan*) 〓 舞ふの語は、*kan* 〓 急動すると同一の語で、従つて巫を稱する *kan* なる語も支那の跳神や蒙古の *böye* と同様に舞ふ、跳る等の義から生じたものと見て誤りはないと思ふ。

右に述べた次第であるから *saman, saman, sama* と *kan* とは各々獨立の兩國語でそれ〓〓別個の成立に歸すべきものであり、蒙古にもまた別の言葉があつたものだと考へる。尤も此等の言葉は唐代以前の文獻には見えてゐないのであるからそれ以前には三種族とも共通した言葉をもつてゐたかも知れないといふ疑もかけ得るが、そこに至つては何とも論じ得べき限りではない、たゞ今日の資料よりすれば彼等はそれ〓〓かゝる特種の語を以て巫を呼んだものであると言ひ得るに止る。

なほ此の問題について今一つ考へなければならぬことは、朝鮮・ツングース・蒙古・トルコ・ペルシャ等の各國

北方民族の間に於ける巫に就いて